



(永島議員)

私は令和7年6月の一般質問で、女性の職場環境の整備を進めるために、生理休暇の名称を改めた健康管理休暇の取得について定期的な職員向けアンケートの実施や、幹部職員を筆頭に、生理痛を再現する機器を用いた職員向けの生理痛体験会などを開催してはどうかと、知事に質しました。



当時の知事の答弁は、「健康管理休暇の取得のしやすさ等に関する職員向けアンケートを実施する」との事でした。そこでお伺いします。

まず職員向けのアンケートは実施されたのでしょうか。

(人事課長)

「健康管理休暇」の認知・取得状況について、今年2月4日から2月18日の15日間、県庁内のイントラネットのアンケート機能を活用し、職員アンケートを実施しました。アンケートは、会計年度任用職員を含む全職員、約8,300人を対象に行い、48.4%から回答がありました。

(永島議員)

続いて、そのアンケート結果とそれに関する分析、そして今後の課題をお聞

かせ下さい。

#### (人事課長)

健康管理休暇への名称変更、制度の認知状況については、生理日の就業が著しく困難な場合に取得できる休暇制度自体については、全体の67.6%、女性職員の67.4%が制度を知っているとの回答でした。

一方、「健康管理休暇」への名称変更を知っている職員は32.6%に留まっており、制度は一定程度認識されているが、名称変更の周知は十分でないことが分かりました。

また、女性職員を対象とした、今年度の取得希望・実際の取得状況については、女性職員の41.5%が生理により休暇を取得したいと思ったことがあると回答しており、そのうち57.0%が「休暇を取得しなかった」、22.7%が「年次休暇を取得した」との回答でした。

また、健康管理休暇を取得しなかった理由は、「周りで誰も取得していないため」が最も多く77.4%、「生理であることを知られなくなかったため」が62.3%、「周囲の目が気になったため」が53.8%となっております。

さらに、健康管理休暇を取得しやすくするための必要な取組については、「上司や同僚の理解促進」が最も多く76.8%、「制度の更なる周知」が69.7%、「申請時の理由を細かく聞かれないようにする」が52.9%でした。

今回のアンケート結果を踏まえ、女性が働きやすい職場環境づくりのためには、引き続き、「健康管理休暇」の名称変更について全職員へのさらなる周知や、上司や同僚のさらなる理解促進が課題と認識しております。

#### (永島議員)

上司や同僚の理解促進や県庁内での更なる周知に課題がある事が分かりました。しっかり進めて下さい。知事の答弁の続きに、「管理職員向けの研修や、

女性活躍推進のための研修において、職員に意識づけを行うほか、企業向けの女性特有の健康課題に関するセミナーに職員を参加させる」とありました。

この答弁を受け、その後、具体的に何を実施、また計画されたのでしょうか

(人事課長)

企業向けの女性特有の健康課題に関するセミナーについては、今年1月に職員が参加し、働く女性の健康支援の必要性や健康課題、求められる配慮について学びました。

管理職員向けの研修や、女性活躍推進のための研修は、今年5月から7月にかけて実施する予定であり、参加する職員は、生理痛に起因する体調管理に関する課題のほか、女性の様々な健康課題について学ぶ予定です。

また、企業の経営者や人事労務担当者を対象に、生理休暇取得促進のための啓発セミナーを今年9月から11月にかけて、県内15圏域で合計15回開催する予定です。このセミナーでは、生理休暇の取得促進に向けて、女性の健康課題に関する研修や、生理痛体験などを実施する予定であり、本県職員も参加する予定です。

(永島議員)

今ご答弁にあった研修や各種セミナーには、幹部職員はどの役職まで参加するのでしょうか。

(県民情報広報課長)

管理職員向けの研修や、女性活躍推進のための研修には、係長以上の管理監督職員が参加する予定です。生理休暇取得促進のための企業向け啓発セミナーに参加する対象者は、現在検討しているところです。

(永島議員)

前回質問するに当たり、私は東京で生理痛体験をしました。その痛みは大変

なもので、多くの女性が毎月このような痛みを抱えながら、仕事や家事に取り組んでいるのかと、尊敬の念すら沸きました。質問の際に、知事ご自身にもぜひ生理痛体験をしていただくよう要望しましたが、その後、実際に体験をされたのかお伺いします。

#### (人事課長)

昨年10月に、九州各県の知事と経済界の代表で構成する九州地域戦略会議において、社会全体で安心して子育てができる九州を目指す「子育てランド九州プロジェクト」の取組として、女性の健康課題について理解を深め、働きやすい職場づくりを進める観点から、生理痛体験会が行われ、服部知事も九州各県の知事とともに、生理痛体験をしました。知事は「電気の器具をつけ、非常に痛い、ずんと重い感覚がし、大変だと実感した」と言われております。

#### (永島議員)

最後に、県庁の女性職員の皆様がさらに働きやすくなり、職員の意識向上に伴って職場の生産性が上がるよう、女性の職場環境の整備について、部長の力強い決意をお伺いします。

#### (総務部長)

女性職員には、生理痛に起因する体調管理に関する課題のほか、妊娠・出産期や更年期等のライフステージに応じた様々な健康課題があると認識しております。休暇の取得しやすさを含め、女性が働きやすい職場環境づくりを進めていくには、このような課題に対する上司や周囲の職員の理解が必要不可欠です。生理痛体験などにより、女性の健康課題について、職員が理解を深めることで、女性が働きやすい職場環境づくりに努めてまいります。